

京芸通信

vol.

30

京芸トビックス

沓掛キャンパス

最後の芸大祭を振り返る

美術と音楽の学生が共に育んだ文化と伝統

教員コラム

「地球の裏側で
10年後の私の種を蒔く」

川端 美都子

音楽学専攻 准教授

キャンパス移転 最新情報

いよいよ今年10月移転！新キャンパスの一部が
姿を現しました / 移転整備募金 ご支援のお願い


NEW
CAMPUS 2023
京都芸大は移転いたします

京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —

京芸人

2022年下半期の京都芸大

京都芸大の最近の活動や、主なトピックスをご紹介します。

JR京都駅で模型・作品・カウントダウンボードを設置 移転まであと1年！カウントダウン開始

今年も京都駅ビルと連携して移転整備プレ事業を開催しました。2022年10月1日から11月6日まで、京都駅西口広場では、在学生の徳永葵さんの油画作品と、新キャンパスの模型を展示するとともに、移転までの残り日数を表示するカウントダウンボードを設置しました。また10月29日には京都駅ビル駅前広場において、芸大祭と連動したPRイベントも開催。カウントダウンボードは現在、中央改札口付近に設置されていますので、JR京都駅をご利用の際は是非ご覧ください！



カウントダウンボード
のお披露目(10月1日)
左から：徳永さん、JR
西日本財京都支社長、
赤松学長、門川市長、
武田京都駅長、京都駅
ビル開発(株) 濱社長



オープニングイベントの様子(10月1日)



PRイベントの様子(10月29日)

作品展示と工芸マルシェで秋を彩る 京都駅ビル芸術祭2022



2022年10月22日から30日まで、京都駅ビル開発株式会社との連携企画「京都駅ビル芸術祭2022～中継地点 from 京芸～」を開催しました。美術学部・美術研究科の彫刻専攻、構想設計専攻の学生による作品展示や、週末には工芸科の学生による工芸品、アクセサリ、雑貨などの展示販売を行い、京都駅を訪れる多くの方々にお楽しみいただきました。



音楽学部70周年記念・移転整備プレ事業 オーケストラ協演！in ロームシアター京都



指揮：下野竜也教授

2022年10月9日、「オーケストラ協演！in ロームシアター京都」を開催しました。本演奏会はこれまで本学講堂で開催してきましたが、今回は本年70周年を迎えた音楽学部の記念公演として、また、移転整備プレ事業として、ロームシアター京都で開催しました。学内で選ばれたピアノ、ヴァイオリン、テノールのソリストたちが、それぞれ日頃の成果を披露し、満員の来場者にお楽しみいただきました。

【プログラム】

- L.v. ベートーヴェン/劇音楽「エグモント」序曲 作品84
- P. チャイコフスキー/ピアノ協奏曲第1番 変ロ短調 作品23
- G. ブッチェーニ/《ラ・ボエーム》より「冷たき手」
- G. ロッシーニ/《スターバト・マーテル》より「嘆き憂い悲しめるその御魂は」
- J. ブラームス/ヴァイオリン協奏曲ニ長調 作品77

【指揮】

下野竜也(指揮専攻教授)
森脇涼(指揮専攻3回生)

【ソリスト】

天勝悠太(ピアノ専攻4回生)
都呂須七歩(弦楽専攻4回生)
三好一輝(声楽専攻4回生)

日本伝統音楽研究センター×国際日本文化研究センター お話と演奏 耳で感じるジャポニスム



国際日本文化研究センター
井上章一 所長

2022年10月8日、日本伝統音楽研究センターが国際日本文化研究センターとの共同主催事業として「お話と演奏 耳で感じるジャポニスム」を京都堀川音楽高校音楽ホールで開催しました。



19～20世紀初頭の西洋で、音楽によってどのように「日本」が描かれたのか、楽曲の演奏と共にそれぞれの楽曲や制作の背景を解説しました。国際日本文化研究センターの井上章一所長のご挨拶に続き、本学の細川周平所長、光平有希特別研究員が解説を務めたほか、齋藤桂講師、音楽研究科学生らが演奏に参加し、計15曲の作品がピアノ、声楽、



日本伝統音楽研究センター
細川周平 所長



日本伝統音楽研究センター
光平有希 特別研究員



日本伝統音楽研究センター
齋藤桂 講師

バイオリン、ギターにより再現され、好評をいただきました。



本学の赤松玉女学長

公開特別講義 第1回《イブニング・テラス》 京都市立芸術大学のキャンパス移転 ーアートが育てる想像と創造の力ー

2022年11月2日、京都経済センター3階KOINにおいて、本学主催、「一般社団法人京都知恵産業創造の森」共催により、公開特別講義《イブニング・テラス》(※)を開催し、定員を超える79名の皆様にご参加いただきました。

第1回目の今回は、「京都市立芸術大学のキャンパス移転ーアートが育てる想像と創造の力ー」と題し、赤松学長から本学の教育研究理念について、授業の実例を挙げながら紹介するとともに、2023年10月に控えた京都駅近くへの移転について説明しました。参加者の皆様には熱心に耳を傾けていただき、多くのご質問をいただきました。

《イブニング・テラス》は、2023年10月の移転までに、京都経済センターで複数回開催予定です。本学ウェブサイト等でお知らせまいりますので、是非ご参加ください。



(※)《イブニング・テラス》は、京都市立芸術大学の教育や研究を公開することで、京都の知恵、文化、技術と融合し、さらなる京都の発展につなげていただくとう企画した連続講座です。

病院の廊下を花や草木、鳥たちで彩る ホスピタルアートの制作を進めています



大学院美術研究科修士課程デザイン専攻(ビジュアル・デザイン)は、京都桂病院との連携事業として、同病院を利用する患者やその御家族の皆様の心を支えるために、同病院の約30メートルの廊下を花や草木、鳥たちで彩るホスピタルアートの制作を行いました。京都桂病院がその費用を確保するために行ったクラウドファンディングでは、目標金額の500万円を達成しました。皆さまからの心温まるご寄付と応援コメントに心から御礼申し上げます。本専攻は、今後も地域に貢献する公共性の高いデザインに取り組みます。



大学院美術研究科修士課程デザイン専攻(ビジュアル・デザイン)は、京都桂病院との連携事業として、同病院を利用する患者やその

世界で活躍する指揮者がオーケストラを指導 シルヴァン・カンブルラン氏による特別授業



シルヴァン・カンブルラン氏

2022年11月21日、ハンブルク交響楽団首席指揮者のシルヴァン・カンブルラン氏をお招きし、本学講堂においてオーケストラの特別授業として、アカデミーオーケストラへの指導と、指揮専攻の学生への指揮指導をしていただきました。受講した学生達にとって大変貴重な機会となりました。

これからの美術教育の在り方を考える 東良雅人客員教授による特別授業



東良雅人客員教授

2022年11月24日、元文部科学省初等中等教育局視学官で京都市総合教育センター副所長の東良雅人客員教授による特別授業を開催しました。本授業では、「こ

れからの美術教育について考える一不確実で予測の難しいこれからの社会を豊かに生きるための教育ー」をテーマに、同氏の幅広い知見と教育現場の実例を交えながらお話しいただきました。学生たちは講義に熱心に耳を傾け、自らの教育実習を振り返るとともに、予測困難な時代において子どもたちが主体的・対話的に深く学べる授業の在り方について考えました。



アーティストが提案する特別なギフト。 THE GIFT BOX 2022

2022年12月17日と18日、本学ゆかりのクリエイター及び演奏家によるさまざまな“ギフト”を御提案する「THE GIFT BOX 2022」を開催しました。今回で9回目となる本イベントは、会場となる日本有数の近代建築物・京都文化博物館別館ホール(旧日本銀行京都支店)を巨大なギフトボックスに見立て、クリエイター自身がブースに立ち、工芸品、アクセサリ、雑貨などの展示販売のほか、演奏家による無料コンサートを行いました。年末・クリスマスシーズンに素敵な“ギフト”に出会いに、今年も多くの皆様にご来場いただきました。



染織業界の想いを次世代に繋ぐ

京都染織会館との寄付に関する覚書の締結



赤松学長と吉田忠嗣理事長

京都の染織業界の発展・振興を目的として活動する一般財団法人京都染織会館（吉田忠嗣理事長）から、1億5千万円の寄付をお受けすることとなり、2022年11月28日に両者で覚書を締結しました。

この度頂戴するご寄付は、学内に京都染織会館の名前を冠した基金を新たに設置し、染織業界と密接に関係する美術学部染織専攻や日本画専攻で学ぶ学生たちの奨学支援や教育研究活動の充実に資する取組の原資とするほか、キャンパス移転に際して染織に関連する施設等の整備に充当することにしており、京都の染織業界を長く支えてきた伝統ある団体から託された想いを次世代に継承してまいります。

指揮に広上淳一客員教授が登場

第169回 定期演奏会



2022年12月2日、京都コンサートホール 大ホールにおいて、第169回定期演奏会を開催しました。今回は、客員教授の広上淳一氏の指揮の下、ベルリオーズ「幻想交響曲」のほか、声楽専攻から選ばれた学生とピアノ専攻の三船優子准教授がソリストとして出演するベートーヴェン「合唱幻想曲」など多彩な曲目をお届けし、多くのお客様にお楽しみいただきました。



ピアノ独奏：三船優子准教授

【ソリスト(合唱幻想曲)】

ピアノ独奏：三船優子(ピアノ専攻准教授)
ソプラノⅠ：佐藤もなみ(大学院1回生)
ソプラノⅡ：伊吹日向子(音楽学部3回生)
アルト：柚木玲衣加(大学院3回生)
テノールⅠ：向井洋輔(音楽学部5回生)
テノールⅡ：井上弘也(音楽学部2回生)
バス：池野辰海(音楽学部4回生)



指揮：広上淳一客員教授

【プログラム】

L.v. ベートーヴェン/『コリアン序曲』作品62
A. ブルックナー/モテット《この場所は神によって造られた》ハ長調 WAB 23、モテット《見よ、大いなる司祭を》イ短調 WAB 13
L.v. ベートーヴェン/合唱幻想曲 作品80
H. ベルリオーズ/幻想交響曲 作品14

京都芸大同窓会アートオークション2023「Hand On」

京芸ゆかりの作品でキャンパス移転を支援

2023年1月6日から9日まで、ギャラリー@KCUAにおいて、京都芸大同窓会アートオークション2023「Hand On」が開催されました。319名(組)の方々から440点の作品を出品いただき、延べ1,119名の方々がお来場、入札件数は1,308件となりました。収益金は、移転整備へのご支援として本学へ寄付していただく予定です。作品をご出品くださった皆様、またオークションに参加してくださった皆様に心より感謝申し上げます。



会場の様子(撮影：花戸麻衣)

京都市×京都市立芸術大学×マクドナルド トレイマット デザインコンテスト



京都市と本学が日本マクドナルド株式会社と連携し、『「生物多様性」について考えて、行動する産学公連携プロジェクト「トレイマット デザインコンテスト」』を開催しました。

最優秀賞と優秀賞は一般の方々によるオンライン投票で選ばれるとともに、選考委員会で京都市長賞が選出され、2023年1月20日にマクドナルド五条桂店にて表彰式が行われました。最優秀賞に選ばれた作品は、2月8日より約2週間、京都市内のマクドナルド全店舗でトレイマットとして使用されます。



【最優秀賞】高野知佳さんのコメント
マクドナルドには自然を大切にする取り組みが数多くあります。マクドナルドも、森とそこに暮らす人や生き物たちも、つながり合ってより良い関係を築いていく様子を、一本の線で描いたイラストで表現しました。



日本マクドナルド株式会社の江夏本部長と高野さん



美術と音楽の学生が共に育んだ文化と伝統 沓掛キャンパス最後の芸大祭を振り返る

約40年の歴史が育まれた沓掛キャンパスでの最後の芸大祭は、「くっかけキャンパスへ、ようこそ。」と題し、キャンパスに宿っているかもしれない架空の神様「くっかけの神様」を学生たちが創造し、沓掛キャンパスを彩りました。(2022年11月5日-7日開催)



学生たちの力作、エントランスモニュメント

芸祭委員長に聞きました

2022年度芸祭委員長 鳥井直輝さん



—3年ぶりの対面(現地)での開催、しかも沓掛キャンパスでの最後の芸大祭。開催に至るまで大変なことも多かったと思います。

「僕にとつての初めての現地での芸大祭は、これまで体験したことのないイベントでした。芸大生の新たな一面を見ることができ、こんな

に楽しい行事なんだと当日は感動しました。」

—準備で苦労したことは?

「コロナ禍の影響で2年間オンライン開催だったということもあり、現地開催での芸大祭が全くイメージできなかったことが一番の苦労でした。中心に進めていた2回生も何から手を付けたら良いのか、当日までに上手いくのか、人が来てくれるのか…はじめは不安しかったです。特に芸祭委員長は本当に何でもやらないといけない立場で、開催前は大変でした。本当に1ヶ月でこれ全部こなせるのかというぐらいの作業が芸祭本部に残っていて、毎日のように徹夜作業でした。当日、各所に掲示していたマップやタイムテーブルのデザイン、広報用のフライヤーやウェブ、SNSの発信も全部芸祭委員長が担当しました。今となっては良い思い出ですが、来年以降は広報の人員をもっと増やすべきだと思いました(笑)。」

—よかったことについて教えてください。

「当日たくさんの方に芸大祭を楽しんでもらえたことです。OB・OGの方も多く、中には遠方から来てくださった方や、今年が過去の芸

大祭の中で一番良かったと言って下さる方もいて、現地開催を知らなかった僕らでもちゃんと芸大祭を作り上げられたことを実感しました。大きなトラブルもなく、3日間晴天に恵まれたこともあり、すごく良い雰囲気で終えることができました。」

—特に印象に残っている出来事は?

「沓掛キャンパス最後の芸大祭ということで、過去の芸大祭のパンフレットアーカイブ企画を芸術資源研究センターや同窓会の方と協力しながら作り上げました。半年ほどかけて収集したパンフレットを当



過去の芸大祭のパンフレットアーカイブ企画

日すべて実際に読めるように展示をしたのですが、大盛況で嬉しかったです。40年分すべてのパンフレットを読んでキャプションの説明などを書かせてもらったかがあったなと思いました。」

—今後の芸大祭について

「3年ぶりとなる現地での芸大祭は本当に未知数で過酷で、でも開催してみると意外と上手いっちゃうものでもありました。来年度以降も、新しい地で新しい芸大祭や学生イベントを、学生全体で考えていけたら良いと思います。」



美術と音楽の両学部が同じキャンパスになったことで誕生した「芸大ミュージカルグループ(GMM)」の公演は芸大祭の目玉ステージとして40年以上続いている。



学生有志が手がける漫画雑誌「芸祭パンジ」。現在第6号まで発行されており、密かな人気雑誌に。



毎年恒例の、音楽学部による仮装バンドの公演。



学長をはじめとする教員の作品群が学内の小ギャラリーに集結する「先生展」。



常盤津部による公演。常盤津節を学べる部活動があるのは、世界で唯一、本学のみ。



能楽部の公演では、アンパンマンやブリキヤなど、芸大祭ならではの独創的な演目を披露することも。



KONEXの外観

地球の裏側で 10年後の私の種を蒔く

川端 美都子
音楽学専攻 准教授

先日、おこがましくも《娘道成寺》を舞台上で踊らせていただいた。50キロを超える衣装と緊張で、本番前から失神寸前だった。踊りの出来はともかく、なぜ私が日本舞踊を始めることになったのか。そのきっかけは、アルゼンチンでのフィールドワークにある。

2012年の冬——アルゼンチンは夏。私は、沖縄出身のSumakoさん宅で寝泊まりをしていた。景観も治安も悪化するブエノス・アイレスの街並みに、この年は特に落胆していた。かつて劇場文化で栄えたコリエンテス通りにはゴミが散乱し、古めかしいカフェは今やスターバックスだ。近所から爆音で流れてくるクンビア（ペルーやコロンビア由来の音楽）にあわせて、Sumakoさんが笑う。

「昔は南米のバリとか言ってたけど、今じゃ南米の南米よ!」

当時、私はディスコやクラブでユダヤ若者音楽の調査をしていた。オイル工場を改造した文化施設KONEXのバックヤードで、燦る煙と酒が交差するなか、男性ばかりの出演者に囲まれて、私は妙な居心地の良さと悪さを感じていた。フジロックの話題で盛り上がるミュージシャンたちは、ディスコやクラブこそが新しい聖地であり、ユダヤ寺院／シナゴークであり、音楽は再びユダヤ人に「なる」信仰過程だと言う。交錯する新旧の価値観、神聖性と世俗性、帰属と流離の狭間を自分自身に重ね合わせて、私はぼんやりと自分が何者になろうとしているのかを考えていた。

出会いは10日後にやってくる。先程のミュージシャンたちが出演するというので、私はパレルモ地区で開催されたコレクティビダー（アルゼンチンを形成する各エスニシティ集団）のフェスティバルに来ていたが——結局、彼らは現れなかった。

気が失せた私は、無意識に「Japón（日本）」と書かれた屋台へと歩いていた。法被を着た若者が手渡した冷たい焼き鳥は、喉につかえた。

水を飲みながら舞台に戻ると、そこでは華やかな着物を纏った女性たちが



Japónの屋台と焼き鳥を待つ著者

ポップ調の演歌に合わせて踊っていた。目が離せない。思わず舞台裏の柵を越えて中に入ってしまった。出演者の一人に話を聞くと、中央で踊っていたのがAlba先生だと言う。「どこで日本舞踊を習えますか?」とカスタ

ジャーノ（南米のスペイン語）で尋ねると、Alba先生は「COA（在亜沖縄県人連合会）にいらっしゃい!」と笑顔でハグをした。

1か月後、私は浴衣に着替え、COAの練習室で日本舞踊の稽古を受けていた。日系2世の女性たちが熱心に踊っている音楽は、島倉千代子の《人生いろいろ》だ。自分の調査とは無関係に見えるCOAでの経験は、結果として、アルゼンチンという脈絡におけるユダヤ若者音楽文化を考えるうえで、重要な比較的視点を与えてくれた。

同時にそれは、人生いろいろな種蒔きだったのかもしれない。パレルモ地区で途方に暮れていた私に、こう言ったらどんな顔をするだろう。10年後は民族音楽学者として職を得ていて、

日本舞踊の最高傑作を踊ることにありますよ、と。多分、私なら「美味しい焼き鳥は食べられてる?」と、ニヤリとしながら聞き返しそうなものだけれど。



KONEXでのFlor de Mamboによる演奏

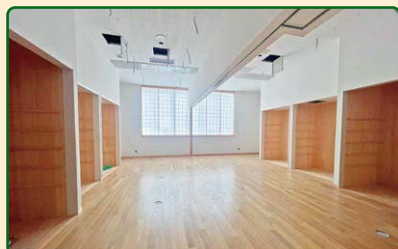


Profile | 川端 美都子（かわばた・みつこ）

大阪大学文学部人文学科音楽学専攻卒業後、同大学院文学研究科博士前期課程と博士後期課程を修了。2006年にロータリー財団国際親善奨学金を得てカンザス大学博士課程（音楽学）に短期留学。その後、マイアミ大学で修士号、インディアナ大学（民俗学・民族音楽学）で博士号を取得。2013年から香川高等専門学校で講師（英語）、2015年から香川大学経済学部で講師・准教授を経た後、2021年から京都市立芸術大学の准教授となる。専門は民族音楽学、ユダヤ研究、ラテンアメリカ研究。

Recent topic

本年10月のキャンパス移転まで、いよいよ残り8ヶ月余り。
完成間近の新キャンパスに関する最新情報をお届けします！



漆工専攻制作室

新キャンパスの一部が姿を現しました！

本年10月のキャンパス移転に向けて、建設工事も急ピッチで進められています。鴨川寄りに立地するA地区では、建物の外構を覆っていた足場やシートが取り除かれ、キャンパス横を走るJR線からも外観を確認できるようになりました。残る2地区の工事も順調に進んでおり、今年の夏以降に順次引越し作業に着手する予定です。



移転工事の進捗状況を本学ウェブサイトからご覧いただけます。
<https://www.kcua.ac.jp/profile/iten/archive/>



B・C地区も着々と建設中！



B地区



C地区



線路側外観



共有工房

島津製作所様への紺綬褒章伝達式を執り行いました

2021年9月に、本学に対し多額のご寄付をいただきました株式会社島津製作所様に対し、日本国政府より紺綬褒章が授与されました。これを受け、2022年12月5日に株式会社島津製作所本社において赤松学長から株式会社島津製作所の中本晃相談役に褒状の伝達を行いました。



株式会社島津製作所 中本晃相談役

移転整備募金 ご支援をお願いいたします

京都芸大では、「京都市立芸術大学 移転整備募金」の活動に取り組んでおります。この募金にいただきましたご寄付は、新キャンパスへの移転に伴い必要となる、作品制作のための機器や楽器の更新など、教育研究環境の充実のために活用させていただきます。皆様からの温かいご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。募金についてご不明な点がございましたら、移転準備室（TEL:075-334-2285）まで、お気軽にお問合せください。

移転整備募金ウェブサイト

<https://www.kcua.ac.jp/contribution/itenseibokin/>



退任教員のご紹介 2022年度末、8名の教員が退任します。



森口 サイモン 教授
油画専攻



児玉 靖枝 特任教授
油画専攻



三木 博 教授
総合芸術学専攻



永守 伸年 講師
共通教育



下野 竜也 教授
指揮専攻



阿部 裕之 教授
ピアノ専攻



四方 恭子 教授
弦楽専攻



津崎 実 教授
音楽学専攻

受賞情報

令和4年度文化勲章受賞者に上村淳之名誉教授、文化功労者に中井貞次名誉教授が選ばれました。

上村淳之名誉教授は、本学で38年間にわたり教鞭をとり、平成11年度から平成15年度までは副学長を務めました。中井貞次名誉教授は、本学で41年にわたり教鞭をとり、多くの後進を指導・育成してられました。お二方とも数々の賞を受賞されるなど、わが国の芸術分野を代表する作家として活躍されており、本学及び文化芸術の発展にご尽力され、退任後も名誉教授として大学運営にご支援をいただいております。

本学教職員一同、お二方のご受賞を心より喜び申し上げます。

学生の成果を披露！ イベント情報



京都市立芸術大学作品展 2022

会期 | 2023年2月8日(水) - 12日(日)
10時 - 18時(入場17時30分まで)
会場 | 京都市京セラ美術館
京都市立芸術大学



*昨年度の卒業演奏会の様子

沓掛キャンパス最後の作品展

本学の美術学部・大学院修士課程で学ぶ全学生の作品を展示する毎年恒例の作品展を、本学キャンパスと京都市京セラ美術館で開催します。絵画や工芸、映像、インスタレーションなど、多種多様な作品をご覧いただけます。

現在の沓掛キャンパスが作品展会場となるのは今回が最後です。多くの皆様のご来場をお待ちしております。

4回生の成績優秀者による渾身の演奏

音楽学部の各専攻から選ばれた成績優秀者が、独奏、独唱、作曲作品を披露いたします。未来へ羽ばたく学生たちの演奏を、是非会場でお楽しみください。

京都市立芸術大学音楽学部 令和4年度卒業演奏会

日時 | 2023年3月21日(火・祝) 14時30分開演
会場 | 京都府民ホール アルティ

未来の芸術家支援 のれん百人衆

京都芸大で学ぶ学生の教育環境の充実のため、京都の老舗企業の皆様を中心に支援の輪を広げ、息の長い厚い御支援を頂戴しております。

ご支援ありがとうございます

イムラアートギャラリー

巖本博

天ぶら圓堂

株式会社大垣書店

株式会社岡野組

株式会社祇園辻利

京都信用金庫

株式会社聖護院ハッ橋総本店

医療法人知音会

株式会社西利

畑 正高

株式会社ハトヤ観光

株式会社フラットエージェンシー

渡辺孝史

*2022年9月 - 2023年1月にご寄付いただき、公表に同意いただいた方(敬称略、五十音順)

未来の芸術家支援
「のれん百人衆」について
<https://www.kcua.ac.jp/contribution/noren100/>



表紙の写真



← ハニワ引き上げ動画

沓掛キャンパスの守り神たち

本学の池には、二体のハニワがいました。ひとつは美術家の藤浩志さんが1985年の大学院修了制作の一環として制作したもの。もうひとつはそれから30年後の学生たちが、藤さんのハニワをリサーチして制作したもの(写真)。二体のハニワはずっと池の中に隠れていましたが、2022年、藤さんの手により池から引き上げられました。同年、沓掛キャンパスでの最後の開催となった芸大祭では、「くつかけの神様」と称した小さなマスコットたちが校内に点在し、守り神の大先輩であるハニワの頭上にもその姿を現しました。

